

あんどくりすの防災四季だより

第17回 放送日：2019.7.26（金）

パーソナリティー：あんどくりす

ゲスト：サニー カミヤ さん

テーマ：ペットと防災 その3



「命を守る」という大切なことに役立つのは、
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどくりす」さんが、
防災・減災の方法を楽しく導きます。

元国際緊急救助隊レスキュー隊員に聞く

ペットと安全に暮らすために、
飼い主の心がけとは？





今週も引き続き
一般社団法人
日本防災教育訓練センター代表理事、
ペットセーバーの

サニー カミヤさんに
お話をお聞きします。

先週は、ペットとの避難の仕方などについて
お話しいただきました。

サニーさん、今週もよろしくお願ひします。



迷子のウォンテッド



熊本地震(※)の時に、知り合いの猫ちゃんが逃げ
てしまって、1ヶ月くらい戻ってこなかったという事
があったそうです。

猫ちゃんは名前も住所も言えません。

最近、マイクロチップ装着を義務付けることなど
が法制化されたりしていますね？ (※1)



はい。

逃げてしまったペットを見つけることは、
なかなか難しいんです。

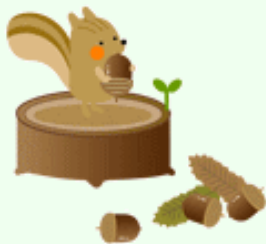
迷子のウォンテッド(搜索願い)のようなもの、

ペットの写真や、その飼い主の情報・連絡先と
いうようなものが、

事前に用意してあると良いですね。

(※)平成28年熊本地震熊本地震
2016年4月14日M6.5、16日M7.3
最大震度7を2回記録。

(※1)ペットの所有者は、
自分の所有であることを明らかにするために、
ペットへのマイクロチップ装着等を行うべき旨が
定められている。





この前の北海道胆振東部地震(※2)の際に、
ペットセーバーとして行きました。

飼い猫を探しているおばあちゃんがいらして、

どんな猫ですか？ と聞いたら
「黒猫のみーちゃん」と。

それでは探せないですよ。

(※2)平成30年北海道胆振東部地震
2018年9月6日 M6.7 最大震度7



マイクロチップ装着

マイクロチップは（※3）、
痛そうだと言われてたりするのですが、実は
猫ちゃんとかワンちゃんは、皮がビローン
と伸びるから、
意外と痛くないんですってね？
これから普及すると良いですよ



大きさも直径2mmと、とても小さいものです。

マイクロチップを装着したペットであれば、その
情報をリーダーで読み取って（※4）、

データベースに登録された情報と照合し、身元
の手がかりを得ることができます。

見つかって保護されたペット達の中から、飼い
主を特定するということにも役立ちます。

（※3）直径2mm、長さ約8～12mmの円筒形の電子標識
器具。IC、コンデンサ、電極コイルから成る。外側は生体
適合ガラスで覆われる。世界で唯一の15桁の数字が記
録されており、専用のリーダー（読取器）で読み取る。

（※4）リーダーは、全国の動物保護センター、保健所、動
物病院などに配備されている。



自宅を安全に

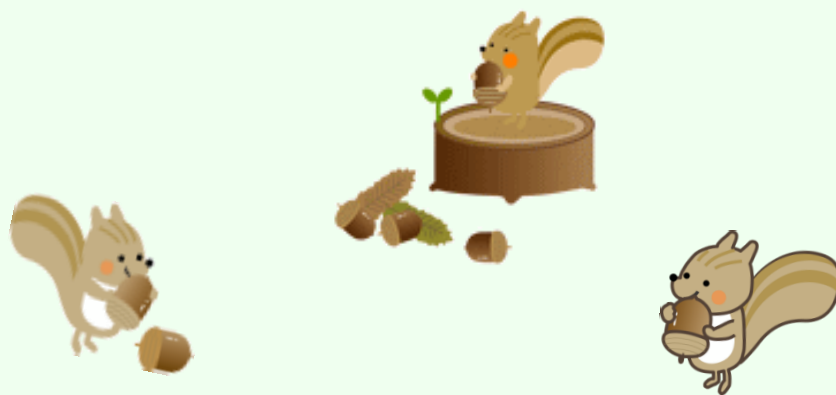
避難所で暮らす事は、いろいろな面で大変ですから、普段から「自宅を安全にする」ことが大切です。

窓ガラスが割れて飛び散らないようにするとか、タンスを転倒防止グッズでしっかり固定するなどは、ペットにとっても、人と同じように大事ですね。

はい、そうですね。

ケージの上に色々なものを置かないとかそこに倒れてくるものが無いように、

人間の場合と同じように考えてください。



ケージの扉は開けておく

ケージの中にいることが安心な子は、

その出入り口、ゲートを開けた状態にして、
自由に出は入りできるようにしておく事が重要です。

火災の場合、入り口を閉じたままですと、
ペットは逃げることができません。

ケージの中に入ったまま、
焼け死ぬ、煙を吸ってしまうなどということになります。

いつも入り口を開けておいて、
その子が、最低限でも安心・安全と思うところへ、

逃げられるようにしておく。
という事ですね。





地震の場合でも同じです。
入り口が閉じていると逃げられません。

物が倒れたり崩れてきて、そこで下敷きになってしまふ事があります。

災害時のペットの行動への配慮といいますか、
そのような場面をイメージして、

防災の用意をしておくの良いのではないかと思います。



災害時の怪我は

もしもワンちゃんや猫ちゃんペットたちが、怪我をしてしまったら、災害時ですと動物病院へ行かれないですよね？

そんな場合は、どのようにすれば良いですか？

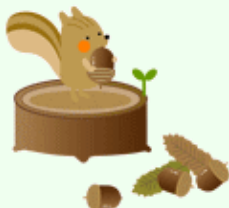
獣医が被災してしまうこともありますね。
もしも治療などが必要な場合は、
近くの動物愛護センターへ。



または、
巡回診療がたぶん始まると思いますので、
それまでは救急処置、救命処置をして下さい。

被災ペット救護施設運営の手引き(環境省)

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h3103/full.pdf



ペットの救急処置

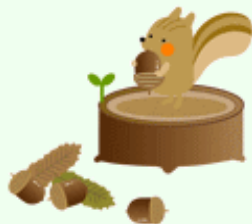
地震でガラスが割れ、その上を逃げ回って肉球を怪我したりなどします。

例えば、肉球をはがした場合。

肉球を保護するようにガーゼを当てがい、その上を包帯で足先から巻き上げていくというような方法があります。

水道が使える場合は、水道水で感染予防の消毒の方法もあります。

水道水には残留塩素が入っていますので、それで流し洗いをします。



ペットの救急隊員



サニーさんは、ワンちゃん猫ちゃん用の救急の手当の仕方を教えて、それを普及させていらっしゃるのですね？

はい。
アメリカなどではそれは普通に、赤十字でも教えていることです。

ご自身のペットの救急隊員になりませんか？
という事で「ペットセーバー プログラム」として講習を行っています。 <https://petsaver.jp/>

ペットの救急救命、応急処置法から、
災害時における倒壊家屋、生き埋め、
壁に挟まったなど、
あらゆる状態からの救出方法などの講習があります。

日本ではあまり教えられてこなかったので、
それを形にして普及しています。
消防士の方々にも講習を行っていますよ。



消防士もペットセーバー

消防士さんも、今ならサニーさんの教えを聞いた方はやってくださる？
それとも？

実行してくれてると思いますよ。はい。実際。

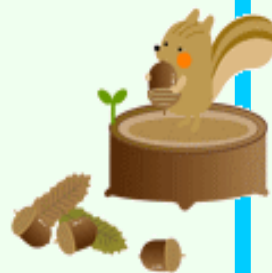
東京消防庁の機関紙「とうきょう消防」にも、
ペットセーバーを紹介していただいています。

消防士さん達は、
「現場において、自分たちもペットを助けよう」という
心意気で、

実際の知識や技術を学んで下さっています。

飼い主と一緒にペットも救助される。
そのような社会が、
かなり身近に来ていると思います。

https://petsaver.jp/petsaver_firefighter/



ビーチでの事故

ペットとの暮らしの中で注意する事や、
溺れた時の対策とかとして、教えていただ
けることはありますか？

夏の時期に毎年あるのが、
ビーチでの事故ですね。



ロングリードで散歩させている時に、
たまたまその犬が何か食べちゃったと。

それがフグの死骸だったりします。

それを飲み込んで、
テトロドトキシン(※5)という毒が体に回って急性毒
症を起こします。

落ちているものを食べさせないように、
予防することですよね。



もう一つは、「フェッチ」という取って来い遊び。
ゴムボールやテニスボールを海やプールに投
げて、何回も取りに行かせるんです。

結局、泳いでいる間に、ものすごく水を飲むん
ですよね。

それで溺れたり、水中毒(※6)になって亡くな
るペットが毎年います。



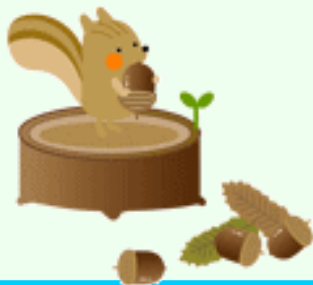
(※5)

一般にフグの毒として知られる。他にツムギハゼ、ヒョウ
モンダコ、スベスベマンジュウガニ、アカハライモリ、な
ど幾つかの生物もこの毒を持っている。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/itiba/suisanbutu/fugudoku.html>

(※6)

水分の大量摂取によって血液中のナトリウム濃度が低下する。
血液が薄くなり浸透圧が下降して細胞内へ水が浸入し細胞が
膨れる。重症化すると意識障害、けいれん、呼吸困難などの症
状が現れ、死に至る場合もある



飼い主の配慮

ペットを危険な状況に追い込まないようにする。
そういう事も飼い主の配慮として必要と思います。

もし、心肺蘇生が必要な状況になれば、
ペットの心配蘇生法もあります。

そういう事もきちんと身に付けて、
いざという時に
実践できるようにしておくの良いですね。



そうですね。
予防する、事前に身に付けておくという事が、

ペットという家族を大切にするためにも、非常
に大事なのですね。





サニーさんのお話、
まだまだお聞きしたいところですが、
今回で最後となりました。

あらためまして、
一般社団法人 日本防災教育訓練センター代表理事、

サニー カミヤさん

どうもありがとうございました。



(TEXT/はしも)